## 誌上行学講習会

高佐日煌上人

「十界の社会観も互具して是を見れば、百界の社会観になり得るが、実際問題として其所まで分解する必要はないようである。然し十界の心理は是非百界にしなければ、自身の平常心を具体的に知ることは出来ない。また十界の社会観と十界の心理とは必ずしも一致していない。その理由は心理その儘社会を成立させる条件になっているからである。」

つぶさに人間の心を観察いたしますと、心象の学、心組の学と二つに分かれます。即ち心のおもてに現はれて来る心の現象、心組の学とはそういう現象をあらわして来る心の組織、心の組立てですね。これを知っていないと自分の心のタズナはひけません。自分の心ですから毎日常につかっています。毎日使っている心の実体が解らないということでは困ります。かりに自動車に乗って運転していますと自動車の構造を知っていなければならない。自動車の構造をよく知っていないと途中で故障したときに治せない。心も全く同じことであります。人間の心は昔から意馬心猿といって心の馬心の猿と言われているくらいでなかなか手に追えない。ですから上手にタズナをひきしめていないと大変なことになります。

皆さんがこれから学びます第二教程の「整識観」によって心の細部に渡った構造が知らされますが、これは超心理学（正確な心を研究考察する学問）と呼ばれ、人間の意識を起えた心理がどこから来ているかを学ぶものであります。そしてこれを学びますことが「死なない生命」を見つける道となるのであります。名づけてこれを「百界心理」と申すのであります。では表を見ながら考へて行くことにいたしましょう。

まず人間心理からお話しを進めて行きます。これが一番解りやすい普通の心であります。人間心の中の地獄心。これは嫉妬心（しっとしん）のことです。嫉妬心というのは理由のないいきどうりで、その理由を問うても説明が出来ない。とにかくしゃくにさわっていてもいられないという心の状態を言います。例えば同じ会社に机を並べて務めている。同じ時機に入って月給も同じであつた。ところが年を過すにしたがって同僚が次第に出世して地位が上つて行く。自分はいつまでも上らない。こんな時、同僚がねたましくて仕方がない。しゃくにさわる。こういう心理であります。これも一種の嫉妬心であります。更に昔から「嫉妬は女のつしむところ」と言われます。夫が世間へ出て浮気をする。女房が家で腹を立てる。これを嫉妬と呼んでいますが、厳密に言うとこれはまちがっています。これは嫉妬ではない。何故ならば、自分の夫の乱れた貞操に対して抗議するのは当り前であって決して理由のないことではありません。大いに正当なる理由がある。嫉妬とは自分の夫以外のよその亭主の浮気するのをおこるというのが嫉妬であります。今日は男女同権の時代であり、夫婦共に正しい道を行かねばならないのであり、道にはずれれば共々に悪を指摘して反省し合うべきであります。

以下次号